安　全　デ　ー　タ　シ　ー　ト

整理番号 TNI 00299
作成日 2005/12/1
最終更新日 2015/1/1

1. 化学物質及び会社情報

会　　社　：大陽日酸株式会社
住　　所　：〒142-8558　東京都品川区小山 1-3-26 東洋 Bldg.
担当部門　：SI 事業部　　担 当 者 ：平　　博 司
電話番号　：03-5788-8695　　FAX 番号 ：03-5788-8710
緊急連絡先：SI 事業部（電話番号 03-5788-8550）
メールアドレス： Isotope.TNS@tn-sanso.co.jp
ホームページアドレス：http://stableisotope.tn-sanso.co.jp

化学物質　　トリクロロ酢酸

製品名　　トリクロロ酢酸-1-^{13}C、トリクロロ酢酸-2-^{13}C

＊ 安定同位元素で標識された化合物は、標識核種及び位置により製品名称が異なりますが、安全性データは非標識化合物と同一とみなします。従って、特に指定しない限り本シートに記載されているデータは、非標識化合物のデータを採用しています。

---

2. 危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性：	火薬類	分類対象外
	可燃性/引火性ガス	分類対象外
	可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性/酸化性ガス類	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外

	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	区分外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分 5
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない（粉じん）
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類対象外（ミスト）
	皮膚腐食性・刺激性	区分 1A - 1C
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	区分 2
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 2 （呼吸器） 区分 3 （麻酔作用）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分外
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

ラベル要素

絵表示又はシンボル：

注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 飲み込むと有害のおそれ

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
遺伝性疾患のおそれの疑い
発がんのおそれの疑い
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
呼吸器の障害のおそれ
眠気及びめまいのおそれ

注意書き：　【安全対策】
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書を入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
粉じんを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
【応急措置】
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
衣類にかかった場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
【保管】
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成・成分情報

単一製品/混合物の区分‥　単一の化合物
化学名 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　トリクロロ酢酸
含有量 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　９９．０％以上
化学式又は構造式 ‥‥‥‥‥　CCl_3COOH
官報公示整理番号 ‥‥‥‥‥　化審法：（２）－１１８８
ＣＡＳ番号 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　７６－０３－９
国連分類番号 ‥‥‥‥‥‥‥‥　８（腐食性物質）
国連番号 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　１８３９

---

4. 応急措置

目に入った場合 ‥‥‥‥‥　直ちに清浄な流水で１５分以上洗浄し、眼科医の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合 ‥‥‥　直ちに汚染された部分を大量の流水で洗い、付着が多い、又はヒリヒリする場合は、医師の診断を受ける。また、水泡が生じた場合は、破らないようにして消毒ガーゼを当て、医師の診断を受ける。
吸入した場合 ‥‥‥‥‥‥‥　直ちに新鮮な空気の場所に移し、暖かくして安静を保ち、呼吸に異常が認められる場合は人工呼吸、又は有資格者がいる場合は酸素吸入を行い、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合 ‥‥‥‥‥　医師の救急処置を受ける。大量牛乳、又は水を飲ませるが、無理に吐かせてはいけない。また、意識のない場合には何も与えない。

---

5. 火災時の措置

消火剤 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　【初期消火剤】二酸化炭素、粉末、砂、ハロゲン化物、泡、霧状の水
【適応消化剤】霧状強化液、泡（水溶性液体用泡が望ましい）、二酸化炭素、ハロゲン化物、粉末
消火方法 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　消火する時は空気呼吸器とガスバリア性の防護衣を着用すること。アルカリ性粉末使用禁止。

---

6. 漏出時の措置

‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥　大量に漏洩した時は可能な限りせき止めし、ポンプ等で回収する。又は砂、油吸着剤等で吸着させ、シートで覆った上、風上からドラム缶等に回収する。消防、警察、保健所に知らせるこ

と。応急措置要員を除いた他の全員は、その地域から避難すること。出来得るならば､漏れている容器等を安全な場所に移動させること。応急措置要員は蒸気の吸入、皮膚、粘膜の腐食防止のため、防護衣の他、皮膚や眼を保護するため、ガスマスクを着用のこと。少量漏洩の時はペーパータオルや適当な吸着剤で吸い取り、密閉容器に収納する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い ・・・・・・・・・・・・・・・ 吸湿が強いので､使用毎に容器を密封する。吸い込む､又は目、皮膚及び衣類に触れる等がないように､適切な保護具を着用する。容器を転倒させる、落下させる、衝撃を加える、又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。

保管 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ アルカリ性物質との接触を避け、耐酸性容器に密封して、冷所に貯蔵する。該当法規に従って貯蔵、取扱い、荷造り、包装、表示、運送を行うこと。(国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。)

---

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。

許容濃度 ・・・・・・・・・・・・・・ 日本産業衛生学会：データなし。

ＡＣＧＩＨ（９２－９３年度版）:

ＴＬＶ－TWA　１ｐｐｍ

ＳＴＥＬ　　データなし。

保護具 ・・・・・・・・・・・・・・・ 【呼吸用保護具】酸性ガス用、有機ガス用、塩素ガス用、ＣＯガス用等の該当する有毒ガスの吸収缶を装着した防毒マスク。（物質、及び濃度に対応した吸収缶を使用する。）

【保護眼鏡】密着型保護眼鏡（ゴーグル)、顔面シールド（フェースシールド)。

【保護手袋】耐薬品性の手袋。

【保護衣】ゴム製安全靴、不浸透性安全靴、不浸透性保護衣、安全帽子（ヘルメット)。

設備対策 ・・・・・・・・・・・・・・ 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。また、取扱所の近くに洗眼および身体洗浄のための設備を設ける。

---

9. 物理及び化学的性質

外観等 ・・・・・・・・・・・・・・・ やや黄色がかった無色結晶状、わずかな特異臭がある。
沸点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ １９７℃ ａｔ７６０ｍｍＨｇ
融点 ・・・・・・・・・・・・・・・・ ５６℃
比重 ・・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
溶解度 ・・・・・・・・・・・・・・・ 水：９３ｗｔ％（２０℃）
蒸気圧 ・・・・・・・・・・・・・・・ ０．０１ｍｂａｒ ａｔ ２０℃
蒸気密度 ・・・・・・・・・・・・・・ ５．６５（空気＝１）
比重 ・・・・・・・・・・・・・・・・ １．６１ ａｔ ２０℃
引火点 ・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
発火点 ・・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
爆発限界 ・・・・・・・・・・・・・・ データなし。
揮発性 ・・・・・・・・・・・・・・・ なし。
その他 ・・・・・・・・・・・・・・・ 強酸化剤、強アルカリ類との接触、混載、水、アミンとの接触を禁ずる。

---

10. 安定性及び反応性

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 強い潮解性がある。光により変質する。熱水、希アルカリで加水分解され、クロロホルムと二酸化炭素になり、濃アルカリではギ酸になる。

---

11. 有害性情報

急性毒性 ・・・・・・・・・・・・・・ 経口　ラット　ＬＤ５０　３３２０ｍｇ／ｋｇ
経皮　マウス　ＬＤ５０　　２７０ｍｇ／ｋｇ
吸入：不明。
刺激性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 眼刺激　　ラビット　強度
皮膚刺激　ラビット　軽度
皮膚腐食性 ・・・・・・・・・・・・ あり。
感作性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 不明。
亜急性毒性 ・・・・・・・・・・・・ 不明。
慢性毒性 ・・・・・・・・・・・・・・ 不明。
がん原性 ・・・・・・・・・・・・・・ ＯＳＨＡ：[×]
ＮＴＰ　：[×]
ＩＡＲＣ：記載なし。
日本産業衛生学会：記載なし。
ＡＣＧＩＨ：記載なし。
変異原性 ・・・・・・・・・・・・・・ エームス：不明。

染色体異常：不明。
小核試験：不明。
生殖毒性 ・・・・・・・・・・・・・ 不明。
催奇形性 ・・・・・・・・・・・・・ 不明。

---

12. 環境影響情報

分解性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 不明。
蓄積性 ・・・・・・・・・・・・・・・ 低い。
魚毒性 ・・・・・・・・・・・・・・・ ＴＬｍ：不明。

---

13. 廃棄上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 該当法規に従って廃棄物を処理すること。（国、都道府県並びにその地方の法規、条例に従うこと。）除害設備を持つ炉で焼却するか、産業廃棄物処理認定業者に委託して処理すること。危険有害性物質（禁水性物質は除く）の付着した容器を廃棄処分するときは、温水等でよく洗い落とした後に処分すること。洗浄水は別途活性汚泥処理施設等で無害化処理すること。危険有害性物質の付着した包装、袋類は、危険有害性物質が飛散しないように処置した後、産業廃棄物処理認定業者等に委託して処理する。

---

14. 輸送上の注意

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 容器の破損、漏れが無いことを確かめ、衝撃、転倒、落下、破損のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。一時停車させる時は安全な場所を選び、エンジンを止めて安全の確保に努める。漏洩事故時、風下の人を避難させ、漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして人の立ち入りを禁止する。車両等によって運搬する場合、荷送り人は運搬人へ輸送上の注意事項を渡す。運送中に大量に漏洩や火災発生が生じた時は、最寄りの消防、警察、保健所に連絡のこと。その他、毒劇法などの法令に定めるところに従う。

---

15. 適用法令

労働安全衛生法 ・・・・・・・・ 名称等を通知すべき有害物
毒物及び劇物取締法 ・・・・ 劇物
水道法 ・・・・・・・・・・・・・・・ 有害物質、水質基準

バーゼル法 ・・・・・・・・・・・・	廃棄物の有害成分・法第２条第１項第１号イに規定するもの
航空法 ・・・・・・・・・・・・・・・	施行規則第１９４条危険物告示別表第１腐食性物質
船舶安全法 ・・・・・・・・・・・・	危規則第２、３条危険物告示別表第１腐食性物質
港則法 ・・・・・・・・・・・・・・・	危険物・腐食性物質
外為法 ・・・・・・・・・・・・・・・	輸出貿易管理令別表第ニ
	輸入貿易管理令第４条第１項第２号

---

16. その他の情報

【参考文献】

原薬メーカーの SDS

Sigma-Aldritch SDS

RTECS

産業中毒便覧

化学品法規制検索システム　　日本ケミカルデータベース

GHS 仕様モデル SDS　　中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

＊ この安全データシートは、各種の文献などに基づいて作成していますが、必ずしもすべての情報を網羅しているものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。また、含有量、物理及び化学的性質、危険有害性などの記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。なお、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いをする場合には、その用途・用法に応じた安全対策を実施して下さい。